

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370900435		
法人名	医療法人社団 福本会		
事業所名	グループホーム和楽 吉番館		
所在地	熊本県天草市牛深町1641番地4		
自己評価作成日	平成25年4月20日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kohyou-kumamoto.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は、皆様が長年生活されてきた町の中心に位置しています。ホームの庭には、家族会のご意見により移植されたシンボルツリーの桜があり、吉番館、武番館それぞれのリビングからは桜の花や、四季折々の緑を眺め楽しむことができます。庭では、地域の人を招いた桜花祭としてお茶会を楽しまれたり、秋の畑では、皆さんで賑やかに芋ほりを行い収穫の喜びを味わったりと、楽しみと賑やかな交流の場所としても皆様のなごみの場所となっています。地域のさまざまな町の行事にも参加しています。春のハイヤ祭り、お花見、夏の素麺流しや秋祭り、郷土料理を一緒に作ったりなど年間の行事をとおしさまざまな季節の楽しみを支援しています。医療面の連携においても永年地域で医療に取り組んできた母体病院があり、利用者様ご家族にも安心していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年により入居者の入替りはあるものの、天草市最高齢者104歳を筆頭に100歳以上が3名も入居されているという超高齢化にあるが、残存能力を引出しながら理念である“和やかに 楽しく”を実践している。行事では挨拶係りとして大活躍をさせる104歳、100歳になっても新聞を読み続け、他の入居者に大きな声で童話の読み聞かせをされる方や率先して歌う等生きる力としての意欲のある生活は全職員の気づきや観察力の賜物であり、「昨日のように明るく、元気があればよい」と評価される姿にグループホームリビングの神髄が表れている。地域密着型として開設時よりの運営体制は確立し、地域生活の拡充も楽しみや生き甲斐作りとして生かされている。医療との強固な連携や職員による健康管理の徹底、家族会の中での家族同士の交流や意見交換等今までにまして充実感が表れている。職員の定着率も良く、各ユニット同士が協力し合いながら、自然体で本人本位の生活を支援しており、温かみのあるホームとして家族や地域から信頼されたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和やかに楽しく」の分かりやすい理念のもとサービスを提供しており、サブテーマを職員全員で話し合い実践につなげている。	グループホーム名にちなんだ“和やかに 楽しく”のもと3つのサブテーマを掲げ、どうしたら和やかに どうしたら楽しくできるか日々振り返りながら理念の実践に取り組んでいる。天草で最高齢者である入居者を中心として100歳でも新聞を読み、訪問者への挨拶を忘れない入居者、「今日も温めてください。」と太陽へ挨拶を行った後の“お日様体操”等に職員のケアの成果が表れている。レベル低下が見られる中で、笑顔を引き出すよう工夫しながらの和やかな日常は理念の実践であると確認された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事への参加や、事業所でのイベントへの参加をいただいております。日々地域の方とのかかわりを持っています。	地域の中での基盤は確立し、近隣住民との密接な関わりはホームの行事への参加やボランティアによる定期的なピアノコンサート等にも近隣住民も呼びかけながら交流していることに表出している。また、保育園との相互交流や敬老会の慰問、あかね市やシルバー文化祭時には作品を出品し見学に出かける等多岐に亘って支援しており、近隣住民から直接の入居相談も寄せられている。	地域の中での生活は充実したものであるが、更に老人会活動への参加も依頼されている。今後も、老人会の方々にホームでの活動も依頼することで、交流のみならず、認知症ケア推進の一環とされることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に対するかかわり方等職員間で共有し地域で困っている方がいれば相談に応じています。またボランティアでのキャラバンメイトでの活動に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方や地域の方に参加いただき現状報告や研修会に参加した内容や報告を行いご意見をうかがい地域に根ざしたサービスの活用などアドバイスや意見をいただき活用しています。	利用者代表や老人会長・婦人会長、行政からは地域包括等充実したメンバー構成のもと定期的に開催される運営推進会議は活動報告やホームから課題を提示しながら意見交換を行っている。地域の情報リサーチや地域の在宅生活困難事例等地域の諸問題を相談する場として生かされている。	有意義な会議であることは議事録により確認された。更にこの会議での提案事項の進捗状況も説明いただき、今後もサービス向上に反映されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政代表として地域包括支援センターの職員に運営推進会議に出席していただき、日頃の相談にも応じていただきイベント等にも出席いただくなどの協力を頂いている。	運営推進会議議事録や外部評価を受審しなくてもよい年度は自己評価提出に出かけながらホームの現状を発信し、家族から出された問題に行政に相談する等日頃からの相談に適切アドバイスを受けたり、運営推進会議やホームのイベントへの出席等協力関係が築かれている。また、県主催の研修や集団指導に参加し、質の向上に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、拘束についての勉強会などに参加し日頃より、身体的拘束また、言葉による拘束についても意識しケアを行なっています。	“身体拘束排除宣言”をしたホームではもともと身体拘束は行わないものと全員が理解しているが、母体での研修会に参加した職員による復講により再認識としている。また、管理者は職員の言葉使い等気になることはその都度指導している。ホームでの生活に馴染み、「家はどうなっているかな」と心配される方や家族の訪問が遠く家族のことを心配されると家族に思いを代弁しながら家族との関係性を保つ等職員は入居者の思いに寄り添うケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の職員集会での勉強会へ参加、得た知識は、共有し合い理解と浸透を深めケアにあたっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県主催の研修会や勉強会に参加し学びを得ています。また、皆で共有して必要な方がいないか話し合いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間を取り条文についてひとつずつの説明を行い、質問や意見をうかがい、十分なご理解を頂いた上で契約を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置していますが、日頃より気軽に相談できるよう関係づくりに努め、ご意見をいただいた時は、職員で話し合いを行い運営に反映しています	家族の訪問時にコミュニケーションを図り、日常の様子を伝えながら要望等を聞き取りしたり、キーパーソン以外の家族にも意見等を収集している。「〇〇して欲しい」の要望等全職員で話し合い、ケアサービスに反映させている。“和樂通信”とともに入居者の一口コメントも添えて近況を報告し、年2回の家族会により家族同士の交流と意見交換の場はサービス向上と共に家族の思いの共有の場として生かされている。また、ホーム内外の苦情相談窓口を開示し家族に説明し、苦情についても全員で精査することとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員の集会を行い意見交換を行う機会をもうけ運営に反映させています。	日々の申し送り時に問題点を話し合い、毎月ユニット毎の話し合いや法人全体の主任会議の中で事業所同士の問題点等を話し合う等職員の意見や提案をホーム運営に反映させている。各管理者を中心として風通しの良い関係が築かれ、勤務体制もユニット同士で協力し合い、職員の定着に働きやすい環境であることが表れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題や相談があればその都度話し合いの場をもうけ改善に努めています。また、年/2回の人事考課をもちいて努力した事や意見、実績の評価をおこないやりがいのある職場作りに反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会は昼、夕2回の開催をおこない参加しやすい用取り組んでいる。外部の研修についても希望があれば確保できるように努めています。資格習得においても積極的に支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、活動内容や研修勉強会など意見交換を行い互いの事業所の利点などを学び交流を行っています。また、得た情報は職員で共有して職場に反映できるよう話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事や望む暮らしについての理解に努め思いに沿った暮らしができるよう十分な話し合いの場を持ちご意見要望等を職員で共有し気づいた事などは話し合い安心できる支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、家族からこれまで過されてきたライフスタイルや習慣、望む暮らしや要望など十分に話をうかがい支援に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の思い、家族の思いを十分に伺い話し合いを行なっています。生活の変化による戸惑いや混乱がないよう必要な支援を見極めながらサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まだまだでえられる事を見極め一緒に活動を行なう中で教えていただくことも多く、笑顔を見せていただける場面もあり、自信や喜びにつながる活動を行なっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一月ごとの情報誌に手紙を添え、日々の生活の様子や気づきなど、家族への報告を行い些細なことでも気になることは連絡を取り、ご本人や家族の思い、要望やご意見をいただき支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容室へ出かけたり来ていただいたり地元のお店へ出かけ店員さんや知人との会話を楽しんだりこれまでの暮らしを感じられるよう支援しています。また、気軽に訪れられる雰囲気や環境づくりに努め支援しています。	地元からの入居者でありホーム周囲には入居者の知り合いも多く、知人から声をかけられたり、昔からひいきにしている商店に買い物に出かける等馴染みの関係が入居されても継続されている。家族や住職(入居者も住職)の訪問や、家族との墓参りや遠方での結婚式にも参加されている。また、初詣や牛深はいや祭り見学、七夕等四季折々の慣習等継続して支援し、入居者同士や職員との関係も馴染みという深い関係にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	自分の力を発揮し、利用者様同士が、自主 的に声を掛け合い朝の体操や散歩に出向く 等の場面作りを支援しています。一緒にくつ ろいだり、活動されたりしてお話をされたりな どの場面が見られています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでのご様子を良く知る側として、入院 された利用者様の状況を伝え連携をとって います。また、家族様の心配事や相談に応 じお話をさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	長年の慣習や生活暦をスタッフは理解し、 個々の状況に合わせ日頃からの様子や何 気ない会話からご本人の思いや意向を汲み 取り思いに添った支援が出来るよう努めて います。	アセスメントでの把握や、職員は入居者と良 く会話を交わしながら、思いを聞き取りして いる。自分の意思を持って生活される入居者 や、思い込みも見えないなかで職員は傾聴に 徹し、何気ない行動や会話等からの推察等 により本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	出来る限りこれまで生活されてきた環境を 訪れたりライフスタイルや経験されてきた 事、趣味や好きな場所などご本人のお話や 家族から話をうかがったりして個々にあった 支援ができるよう把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個々の出来る事や好みの活動を理解し、心 身状況を把握した上でスタッフと活動したり 利用者様同士の活動を支援したり状況に応 じた声かけを行い楽しみに繋がる活動の支 援をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	スタッフ全員の日々の気づきや情報の共有 を出きるよう意見を書き入れモニタリングし ている。担当者会議において、現状の報告 やご本人様の要望等を伺い、家族、スタッフ の意見を取り入れたプラン作りを行なってい ます。	日々職員は入居者と職員用の連絡ノートの 使い分け等気づき等を持ったケアを行い、担 当職員の意見を基に全員での意見交換や半 年毎のアセスメント・モニタリングによりプラン の継続可否を見極めている。家族には訪問 時や遠方の家族には電話等により意向等を 収集し、プランに反映されており、具体的且 つ詳細、個別的なプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別のファイルで管理し変化や新たな気づきを記録、申し送りや話し合いを用いて情報の共有をはかりより良いケアにつながるよう活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じ、リハビリや定期受診介助を行ったり往診や地域資源を活用した福祉タクシーの利用や出張美容などへの取り組みを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の秋の音楽祭参加、文化展への出品は‘元気に来年も’と大きな希望となっています。また地域の祭りや行事へ出かけたり、幼稚園児や婦人会ボランティアに訪ねていただき楽しみの支援につながっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院の内科、眼科受診や、訪問看護による相談、夜間、緊急時における相談、細やかな医療支援をおこなっています。また、家族の協力を得精神科受診、歯科医往診の協力を得ています。	元々母体を医療機関をかかりつけ医とされた方が多く、往診や受診に職員が同行し受診報告書により主治医との情報の共有を図っている。状況に応じ、専門医受診には家族に依頼し、家族の都合等の状況に応じホームでも対応し、適切な医療受診を支援している。二週間毎の訪問看護からの健康管理や、日常のバイタルチェック・観察により通常との違いを主治医に相談したり、指示を受け早めの対応として入居者の体調維持に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が従事しており日々相談しながら健康管理を支援しています。また、月／2回の訪問看護による健康チェックや相談等支援しています。夜間であっても心配なことがあればすぐに母体の病院へ連絡協力を得る事ができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携指示書を作成提供し、入院時の混乱や戸惑いを軽減できるよう情報の提供を行っています。また、家族本人の意向に添えるように医師を交えた話し合いの場をもうけたりして支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診や健康管理の状況をお知らせしています。変化や心配な事があればその都度家族へ連絡を取り本人、家族の意向をふまえて話し合う機会を作っています。必要であれば主治医を含めご本人家族、スタッフで話し合い連携した支援ができるよう情報を共有しています。	重度化時の対応指針を作成し入居時に説明している。本人・家族の意向の確認には医師を交えて話し合い、医療行為が中心となるとホームでの対応が難しく母体医療機関への入院としており、家族の「ぎりぎりまで」の希望にホームでの生活の継続を訪看や主治医と共に支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人において救急救命の訓練に参加し情報を共有しています。また、緊急時マニュアルに添った対応をシュミレーションしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練を含め年々2回の消防避難訓練を行い、地域の方々にも参加していただき利用者様や施設の様子を知っていただき協力を得ています。	年2回の昼夜を想定した火災避難訓練では入居者も一緒に避難に加わり、地域住民も参加が得られている。日常の火元チェックで先ずは火を出さない事を意識付け、消防団や保育園児の火災予防の巡回等は入居者との交流ともなっている。又、津波時の避難場所確認や、避難の机上訓練を行い、ホーム自体も避難場所としての指定を受けている。	自然災害への備えとして第2避難場所まで歩いて時間を計測する等意識を高くして臨まれている。今後も、有事の際に備えた備品や備蓄について、再検討される事に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を忘れず一人ひとりの個性の理解に努め折にふれ、スタッフ間で話をしています。人格を尊重した対応や言葉掛けを行いその人らしさ、思いに沿った暮らしができるように努めています。	職員は人生の先輩の方々との関わりが出来る事に感謝し、方言を交えた自然体での対応の中にも誇りを損ねないように言葉遣い等に注意を払っている。入室時のノックや入浴・排泄時等は羞恥心やプライバシーに配慮しながら支援している。写真掲示を含めた情報使用の同意を交わし、守秘義務を遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の理解に努め、表情やしぐさ、何気ない行動から思いや希望を汲み取り自己決定できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の一日の生活リズムに配慮しペースに合ったケアをしています。外出や趣味活動などご本人の自信と満足につながる支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでお付き合いされてきた美容室へでむいたり、出張していただいています。お話をしながらその日の洋服を一緒に選んだりの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材に触れ下ごしらえや、盛り付け、配膳、後片付け等、個々の力に応じた活動をスタッフと一緒にこなしていただいています。手作りのおやつを振舞ったり、満足や自信にもつながっています。	法人からの食事やホームで調理したり、日曜日は自主献立の日として好みのメニューで提供している。入居者も包丁を持って皮むき等の下ごしらえをしたり男性入居者の味見等共に食事作りに携わっている。時には畑の野菜を使用したり、好物の刺身やパン等が食卓に上り、視覚でも楽しめる行事食(雑寿司等)で楽しみのある食事支援となっている。個々に合わせた形態や職員も同じ食事を摂りながら見守りや声かけで和やかな時間を持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録、摂取状況の把握をしており、状態に応じ刻み食やトロミ剤の使用、掴みやすい器や、コントラストをつけご飯が分かりやすくする等の個々に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣タイミングに応じた声かけを行い、声かけや一部介助を行なう等その方に合わせケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを理解し、表情やしぐさなどのサインを職員間で共有しています。その方に応じプライバシーに配慮したさりげない誘導見守りを行っています。	個々のパターンに合わせて時間を見た誘導や様子を察し手引き歩行等でトイレに誘導している。又、昼夜で排泄用品を使い分けたり、一人ひとりに応じた下着の使用は100歳や104歳の入居者も布下着での気持ち良い支援となっている。夜間はポータブルの使用もおられ、部屋に置かれた排せつ用品にはカバーをし居室環境にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事摂取量や水分摂取、排泄の管理を行っており個々の健康状態を把握しています。整腸に心掛けたヨーグルトなどの摂取、身体を動かすレクリエーションを取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日声かけを行い要望に沿えるよう支援しています。ゆっくりとくつろげるよう一人用の浴槽、機械浴を設置しています。時には足浴を支援したりゆず湯や菖蒲湯など楽しんでいただいています。	入居者の希望に合わせて毎日入浴できるように準備している。各ユニットで浴槽の種類は異なっているが、歌を歌う等ゆっくりと本人に合わせて支援しており、入浴剤やゆず・しょうぶ湯等も取り入れている。拒否に対しては誘い方を工夫しながら間隔が空かないように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体調にあわせた休息を取っていただいています。マットレスの工夫を行ったり安楽な体位の情報を共有しています。リラックスソファで仮眠されたりし、寒い夜などは湯たんぽを喜んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの職員が、処方箋と照らし合わせて確認をおこない、効能や用量を理解して服薬支援をしています。症状の変化や異常があれば母体病院と連携した支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技や趣味に応じた活動をとおして喜びや自信につながる支援をしています。一緒に余興の衣装を縫ったり、調理、花や畑作りなど役割を持ち特技を生かした活動や近隣の散歩、外出などさまざまな楽しみの支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の方へのお知らせの手紙と一緒に訪ね届けて散歩をしたり、馴染みの店への買い物や自宅外出など状況に応じた外出支援をしています。また、中庭で日光浴やお茶を楽しんだり、お祭りやお花見など家族の支援を受けられるよう声かけをして協力していただいています。	中庭やデッキでの外気浴や、近隣に散歩がてらに行事案内を職員と一緒に配ったり、クリーニング店やお菓子屋さん等馴染みの店へ出かけ、地域の祭り等へ車椅子の方も一緒に出掛けている。又、受診も外出の機会として生かされていることは自分でいそいそと着替えられる姿に表れている。結婚式に遠方まで出かけられる等家族の協力による外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は、預かり金として管理をしている方もありますが、馴染みの店への買い物支援をとおして好きなものを自分で選んだり、支払いをしていただいたり自信や楽しみにつながるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月/1回発行の情報誌には、御家族へ自筆にて一言の手紙を添えていただくように支援しています。また、年賀状や暑中見舞いなどの支援をして喜ばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭を眺めることができるリビングでは、季節の花や皆さんで作った季節の飾り物等があり、皆さんでくつろいでTVを楽しんだり、お茶をたのしんだりとくつろぎの場所になっています。	季節の飾りや・花・文化祭に出品した大作の貼り絵等で季節感や和やかな環境が作られ、中庭には四季を彩る樹木が植えられている。日当たりのよい場所に畳を敷き横になるスペースを作り、一度リビングに飾った作品は廊下に掲示することで入居者の自信の回復に繋げている。入居者同士の和やかな生活が居心地のよい空間として一層深めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後ほっと一息、庭を眺めゆっくりと過されたり、ソファでは、横になりTVを楽しんだり、ひとつのテーブルを囲み皆さんで談話されたりほのぼのとした場面が見られています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の、使い慣れたものや、愛着のあるものなどの持込をお願い。相談しながら安全で安心できる居室作りを家族と相談しながら工夫していています。	其々の居室には使い慣れた品物や家族写真・衣類等が持ち込まれ、担当職員は家族と連絡し合い本人が安心して過ごせる部屋作りに努め、遺影に水を上げるのを日課とされる方もおられる。壁面にはぬり絵の作品を飾ったり、入居者によっては物を置かない部屋もあり、リビングから「家に帰ります」と自分の部屋に向かわれる等自分の住まいとして使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目線にあった分かりやすい矢印等の表示を行なっています。廊下や浴室など手すりを設置してあり安全な自力歩行に役立っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370900435		
法人名	医療法人社団 福本会		
事業所名	グループホーム 和楽		
所在地	熊本県天草市牛深町1641番地4		
自己評価作成日	平成26年2月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

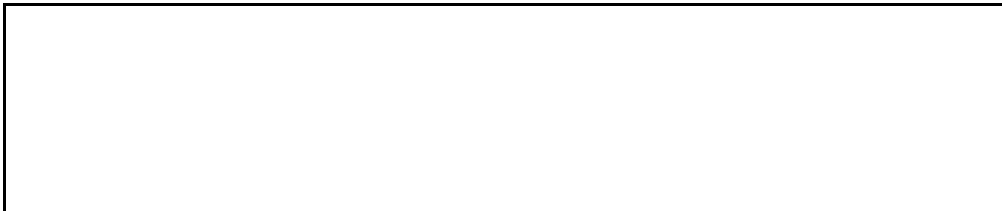
施設は、皆様が暮らしを営んでこられた町の中に位置しており、四季折々の緑豊かな中庭を挟み書館・二番館があります。春には、家族会のご意見により移植された桜をそれぞれのリビングから楽しむことが出来ます。畑では、野菜や花を育て、秋には収穫を皆さんで楽しみ・喜びにつながっています。入居者様お一人おひとりを尊重し、これまで生活されてきたスタイルや習慣を し、地域に根ざした、和やかで楽しい暮らしを支援しています。季節を通したさまざまな町の行事にも参加しています。春のハイヤ祭り・お花見・地元の秋祭りなど、年間の行事をとおしさまざまな季節の楽しみを支援しています。医療面の連携においても永年地域で医療に取り組んできた母体病院があり、利用者様ご家族にも安心していただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年3月4日		



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和やかに楽しく」の分かりやすい理念のもと、サービスを提供しており、サブテーマを職員全員で話し合い実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事への参加や、事業所でのイベントへの参加をいただいております。日々地域の方との関わりを持っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に対する関わり方等を職員間で共有し、地域で困っている方がいれば相談に応じています。また、ボランティアでのキャラバンメイトでの活動に活かしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方や地域の方に参加いただき現状報告や研修会に参加した内容や報告を行うことで、地域に根ざしたサービスの活用ができるようアドバイスや意見をいただいております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政代表として地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加していただくことで、日頃の相談事やイベントの参加など協力を得ています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、拘束についての勉強会などに参加、日頃より、身体的拘束また、言葉による拘束についても意識しケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の職員集会での勉強会へ参加、得た知識は共有し合い理解と浸透を深めケアにあたっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県主催の研修会や勉強会に参加し学びを得ています。また、皆で共有して必要な方がいないか話し合う場をもうけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を取り、条文についてきちんと説明を行い、質問や意見を伺い十分にご理解をいただいた上での契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置していますが、日頃より気軽に相談できる関係づくりに努め、ご意見を頂いた時は、職員で話し合いを行い運営に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員の集会を行い意見交換を行う機会を設け運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題や相談があればその都度話し合いの場を設け改善に努めています。また2回／年の人事考課をもちいて協力したことや意見・実績の評価を行いやりがいのある職場づくりに反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会は昼・夕2回の開催があり、参加しやすいよう取り組んでいます。外部の研修についても希望があれば確保できるよう努め、ケアの質が向上できるよう支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、活動内容や研修会・意見交換を行い、互の事業者の利点など学び、交流を図っています。得た情報は職員で共有し職場に反映できるよう話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の暮らしの中で何度も同じ内容の訴えや不安な表情等見られる場合、寄り沿ってコミュニケーションを図りながら安心して生活できる環境づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様も交え家族の方とも話し合える場を設けている。その会話の中で家族の思いや意向をくみ取り、より良いサービスの提供に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の不安に思われていることや必要であるものなど、家族の方とも十分な話し合いをします。本人様・家族の方の思いに沿ったサービスの提供ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の活用できられることを共に行い、自分のペースで活用してもらい、共に支え合う環境作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活や状況報告をし、健康面での変化が見られる時は、家族に連絡し可能であれば受診同行してもらい、直接主治医からの話が聞けている。イベントの参加のこえかけで参加してもらい家族の方と支え合い環境作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの行きつけの美容院や買い物先等の外出支援を行ったり、知人の来訪があれば、ゆっくり会話ができる場の提供をしています。また、併設しているデイサービス利用の馴染みの方との交流関係が途切れないよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方一人ひとりの性格を把握し、ダブルがあつたときはすぐ、間に入り、エスカレートしないようコミュニケーションを図っている。入居者の方同士の行き来もあり、車イスの介助などお互いの支え合う支援がみられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後も家族の方にお会いした際は、近況を伺ったり、入院されている場合には、馴染みのあった利用者の方と一緒に見舞いに出かけたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや本人様と会話から希望や意向の把握に努めています。また、本人様の言葉や表情からもその心境を推し測ったり家族の方からも情報を得ながら支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や家族の方から、これまでの暮らしや馴染みのある暮らしぶりの情報を得ながら、これまでの生活に近い状態での生活が送れるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の生活のリズムを把握しており、無理のない範囲の中で、得意分野やできることに参加していただき、個々の力等の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族の方と日頃の関わりの中で思いや意見を聞き定期的に担当者会議を開き、気づきや意見交換をし、アイデア等を反映できるよう努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事や排泄等の身体的状況や日々の暮らしの様子や本人様の言葉・エピソード等記録しています。改善しなければいけないことがあれば、すぐに話し合い実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態や家族の方の意向に配慮しながら支援している。また、本人と家族の思いに解決できないことが生じた場合、納得・理解してもらえるよう柔軟なサービスの対応に努め取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	婦人会やボランティアの方々のダンス披露等では、御礼の言葉を言ってくださったりホーム内でのイベントには、家族の方・地域の方の協力を得て一人ひとりのペースに合わせて楽しみながら参加できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際にはスタッフ同行し時には家族の方にも付き添っていただき主治医への相談もでき、適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	愛日のバイタルチェックでの異常や日々の様子の変化が観られた時は母体である病院に連絡し看護師に報告、主治医の指示が早急にでき、訪問看護にて適切な処置対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携指示書を作成提供し、入院時の混乱や戸惑いを軽減できるよう情報提供しています。また、母体である病院への入院が多いため、いつでも情報交換でき、家族の思いに沿った入退院ができるよう関係づくりをしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体が病院であるため殆どの家族の方が病院を希望されています。家族の方、主治医、職員と話し合いながら、その人らしく生活できられるよう支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修会には積極的に参加しています。また、マニュアルを職員間で共有できる様、日頃から話し合える雰囲気づくりに努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の非難訓練を行っています。地域の方々の協力を得、参加してもらうことで、近所の方との距離間がなくなり、協力体制が築けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの肩を尊重し、言葉使いや失礼な態度の無いよう対応に気をつけています。訪室時のノック・声かけは必ず行いプライバシーの確保に繋がっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や仕草から思いを感じとれるようコミュニケーションを図りながら自己決定ができるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせ、その中で本人の希望されることを優先できられるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等は本人様が選ばれ希望されるのを着用していただいています。希望されれば散髪・髪染めなどホーム内で行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の日は入居者の方の好きな献立を取り入れ野菜等の下ごしらえを分担して手伝っていただいています。また、後片付けも積極的にくださりスタッフと共に行こなっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ食材を刻んだりミキサーにかけたり分量の調節などして提供しています。水分補給もこまめに提供しており、自室での過ごされる時間の多い方にも、お茶・白湯の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・介助をしています。歯間ブラシ・薬用歯磨き粉、夜間には義歯洗浄剤を使用することで個々に合った口腔ケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレへの声かけや誘導にて排泄していただいています。夜間のPTイレ希望される方には提供し安心して排泄できるように把握に努め残存機能を活かし自立する支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンにて、コントロールが必要な方には水分補給や食物繊維の多い食べ物を提供しています。日頃から軽い運動やレクリエーションに参加してもらい、自然排便されるよう個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各自の希望に沿って入浴していただいています。ゆっくり入りたい方には、時間を気にせず、希望通りの入浴を楽しんでいただいております。毎日入浴できるように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、本人様の休息したい時間に休んでもらえるよう努めており、本人様の希望を取り入れ気持ちよく眠られるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の受診から処方に至るまで、人目で理解できるよう記述しており、変化等あれば引き継ぎの際申しおくりや、スタッフ間の連絡ノートに書く事で再確認し症状の変化や服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様や家族の方からの情報を元に一人ひとりの得意分野を活かしてもらえようような雰囲気づくりをして楽しんでもらえるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様が希望されれば、家族の方に連絡必要であれば連絡、協力していただき外出の支援を希望時に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどのの方が自分で管理できないため、スタッフ管理となり、各自の出納帳に記入して、家族来訪時に確認していただいています。また、買い物に行ける方は一緒に出かけ買い物支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されればいつでも利用でき、落ち着かれるまで会話してもらっています。また、毎月発行している通信と一緒にその月の状況報告をし、家族とのやり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは中庭を眺められ季節の木々や花々を楽しむことができます。また、日当たりも良く窓際にて日光浴を楽しまれ、心地良い空間となっています。ボランティアの方の協力で清掃されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーには好きな時間にいつでもくつろいでもらうことができ、次々と集まって来られ、いつの間にか皆さんで和まれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から大切にしてくられた物や家に飾られていたものなどの持ち込みもあり、家族との記念写真など、思い出のあるものを触れたり見たりして話をされることもあり、居心地良くすごしていただけるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のできることはできるだけ行ってもらい、その方のペースに合わせ残存機能を活かした生活が送れるよう環境作りに工夫しています。		